

震災の東北・熊本で甲北高生奮闘

交流シリーズ ③

塩竈高校生と防災の勉強会



塩釜でたこ焼きパーティー

東北大震災や熊本地震の被災地へ出かけ、ボランティア活動をやっている高校生がいると聞いて3月31日、県立甲北高校（北区大脇台）を訪ねました。

2011年から毎年春に宮城県塩釜市・東松島市を訪れ、夏休みには塩竈の子どもたちを招いて交流を続けています。きっかけは、甲北高の関係者の呼びかけでした。支援活動の中心はボランティア委員会。部員は10人、顧問は粥川碧子先生です。

この春は3月24日から2泊3日の日程で空路現地へ飛び、交歓会を重ねてきました。24日は塩竈市長と面談。塩竈高校生と防災・減災について勉強会をしました。25日は公民館で子供たちとタコ焼きパーティーを楽しみ、宿泊先のお寺で、住職から震災体験談を聴いてミーティング。26日は東松島に移動。津波の惨状を見学して遊覧船で松島巡り、夕方の便で神戸へ帰りました。

この日話を聞いたのは、東郷明日香・猪野美森（2年）・伊藤愛梨・小林美月（1年）さんの4人。

「津波の惨状を見て、この災害をどう伝えていったらいいのか、考えさせられた」「募金など、神戸でできる活動もしたい」「減災の大切さを痛感した」「半年ぶりに現地の子供たちに会って、成長ぶりに驚いた」「家族に障害者がいるので、津波に襲われた時、どうしたらいいのか」と、口々に感想を話してくれました。

一方で、日常のボランティア活動も大切にしています。メンバーに男子が1人だけ、というのが目下の悩みですが、手話や点字を習い、隣接する特別支援養護学校などへ出かけています。「東北支援はこれからも続けます」と力強い言葉が返ってきました。

熊本ではペンキ塗り

熊本県益城町へ出かけたのは生徒会の有志12人。0Bの大学生を含め総勢19人が3月24日、夜行バスで出発。25・26日の2日間、小池島田仮設団地（約50戸）でお手伝いをしてきました。中野力・山内優斗君（共に2年）によると、ペンキ塗り（左の写真）が主な作業でしたが、自治会との交歓会が楽しい思い出となっています。

「崩れた熊本城の石垣やあちこちに残る地震の被害に驚いた」「ペンキ塗りで皆さんから感謝され嬉しかった」「茶話会でお年寄りから孫みたいと言われ照れ臭かった」。被災者と直に話し交流できたことが、熊本行きの何よりの収穫だったようです。

*私たちグループ〈わ〉も東北や熊本へ出かけていますが、春と夏に支援を続けることは大変だろうと思います。「甲北の皆さん、よくやってくれてありがとう」と言いたいですね。（写真は2枚とも甲北高校の提供です）

（取材・南形徹 惣山町在住）



